

コーホート法による将来人口推計値の確度についての考察 (詳論)

— 20年前の推計値から確度を検証する —

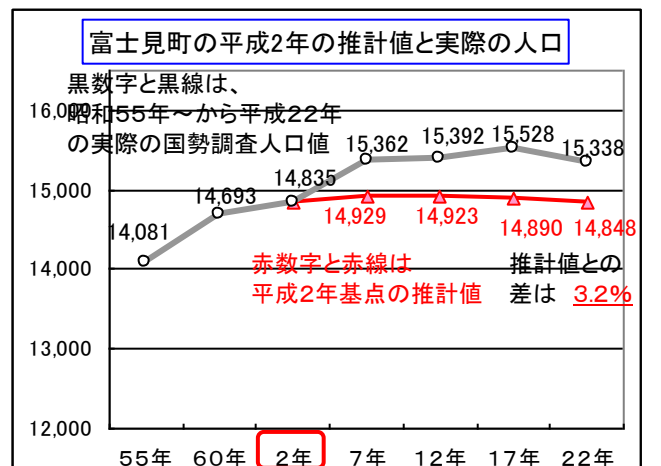
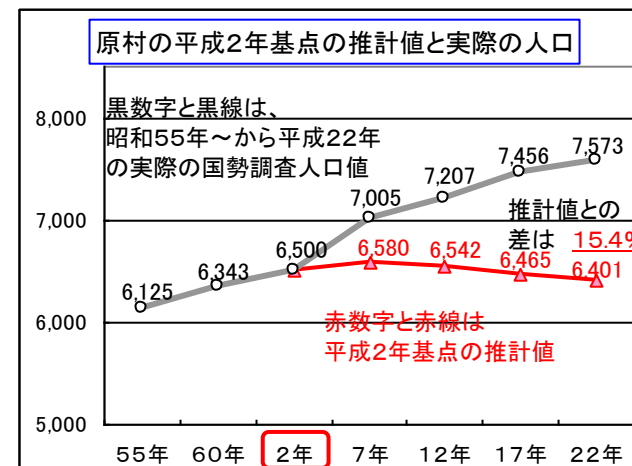
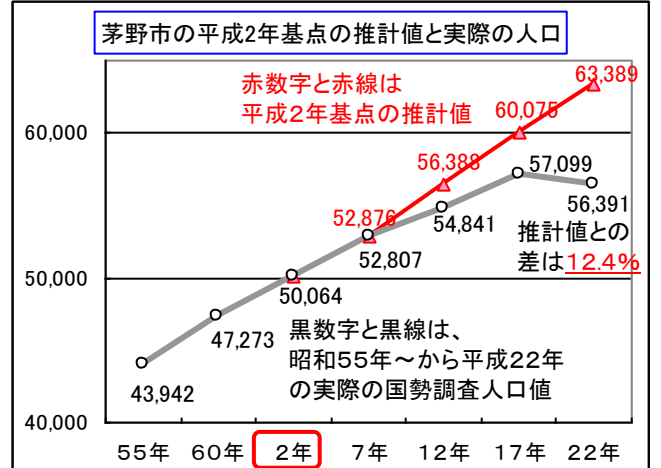
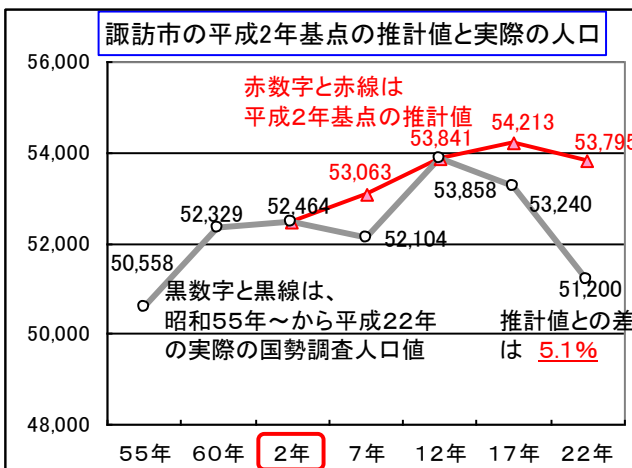
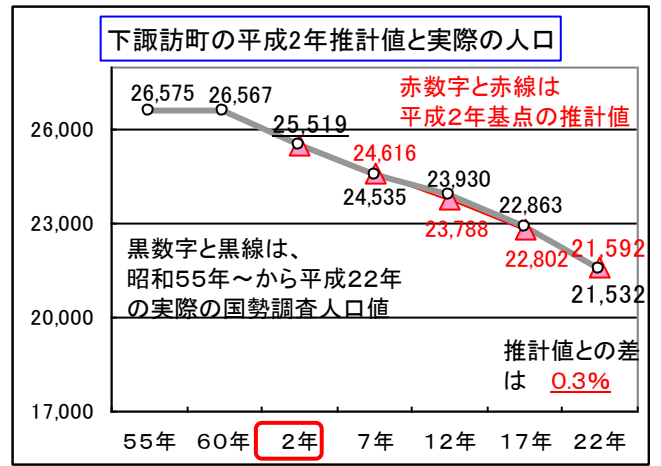
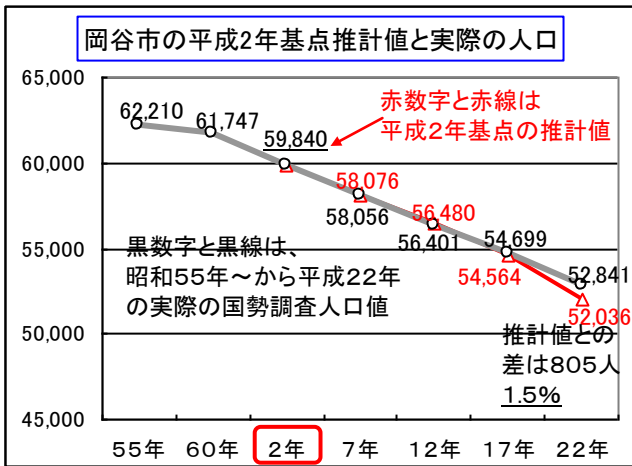
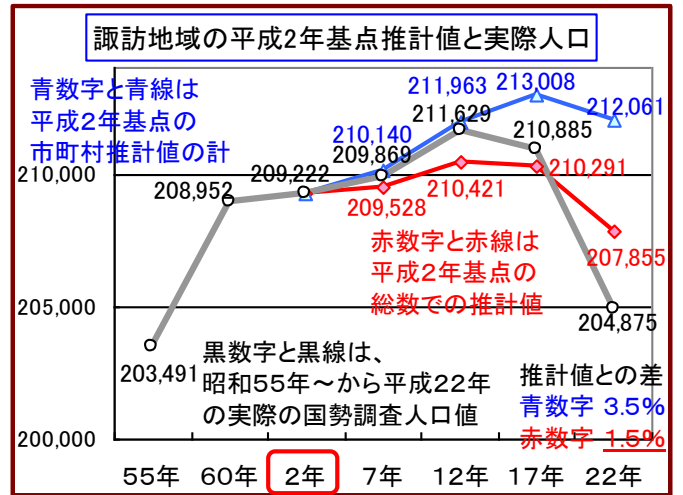
「平成2年基準の平成22年推計値と

実際の国勢調査人口値との差」

諏訪地域 市町村値の合計 + 3.5% ○

総数での推計値 + 1.5% ◎

岡谷市	-	1.5%	◎
下諏訪町	+	0.3%	◎
諏訪市	+	5.1%	△
茅野市	+	12.4%	◆
原村	-	15.4%	◆
富士見町	-	3.2%	○



「前頁の図表による考察」

1. 諏訪全域の、総数による推計値の確度は高かった

(1) 諏訪全域では、総数による推計値が6市町村推計値の合計より確度が高かった

- ① 平成2年の総数による推計では平成22年の人口を207,855人と推計し、実際の国勢調査による人口204,875人との差は2,480人で1.5%の差にすぎず、確度の高いものであった。
- ② 平成2年の6市町村の推計値を合計した平成22年の人口は212,601人で、実際の国勢調査による人口との差は5,186人で3.5%の差となったが、確度が低いとは言えない。

(2) 総数による推計値の確度は高かった

- ① コーホート法による推計では、20万人くらいの人口規模の推計の確度が高く適していると言われているので、諏訪全域の推計ではより小規模の市町村の推計値の合計よりは、総数による推計値の方が確度が高かったものと思われる。
- ② 20年後の人口推計値が、実際の人口とわずか1.5%しか違っていなかったということは、諏訪全域の総数による将来人口推計値の確度の高さを物語っている。
- ③ 参考までに平成22年基準の諏訪全域の推計値では、平成42年の6市町村の推計値の合計は166,508人に対し、総数による推計値は164,233人で低いものの大きな開きはなかった。

2. 市町村の推計値の確度にはばらつきがある

(1) 岡谷市や下諏訪町など、人口減少期に入った市町村の推計値の確度は高かった

- ① 「リポート No.1の 2. 確度の考察」のように、平成2年に人口減少がはじまった岡谷市や下諏訪町のその当初に算定した20年後の推計値は、実際の人口と1.5%以内の差にすぎず確度が非常に高かった。

(2) 茅野市や原村は、基準年前後に大きな社会増加があり推計値の確度は低かった

【茅野市】 ① 20年後の推計値と実際の人口に12.4%の差があり、確度が非常に低かった。

- ② 茅野市では平成2年までは新たに工場や学生・団地住人の急激な流入があり、その動態を基にした推計したので20年後の推計値を大きく算出した。
- ③ 学生や団地住人の急激な流入が静まるなかで、人口増加傾向も静まり、平成22年までの実人口の推移が推計値よりも低いものになったと思われる。

【原村】 ① 20年後の推計値と実際の人口に15.4%の差があり、6市町村のなかで最も確度が低かった

- ② 原村は平成4年に以降自然減に入る直前で自然増加少なく、社会増も少なかった動態を基にして平成2年に推計したため、20年後の推計値を低く算出した。
- ③ 平成2年以後に村外からの移住者の増加などの要因があって実人口が増加した。人口規模が小さいため、人口動態の変化による推計値の変動も大きい。

(3) 諏訪市は社会増減の変動が激しく、推計値の確度はやや低かった

- ① 20年後の推計値と実際の人口の差が5.1%であったということは、確度がやや低かった。
- ② 平成2年の推計値は、人口動態の不安定なことを反映してやや高めの推計値を出し、人口減少期に入るのはもっと遅くなると推計した。
- ③ 諏訪市は外国人の居住者が多くその転入や転出が多いことや、一時的居住者のアパートなどの多いことなどが、好不況の影響による社会増減の変動を大きくしたと思われる。

(4) 富士見町の推計値の確度は高かった

- ① 20年後の推計値と実際の人口の差が3.2%であったということは、ほぼ許容範囲の確度であったと言える。社会増を増やす新たな要因があったためと思われる。